

## 東経 135 度

関西大学 社会安全研究センター 小澤 守

筆者の母校、西脇東中学校の近くの岡之山に東経 135 度、北緯 35 度の交点がある。西脇市は公園整備をして現在では日本へそ公園と称し、JR 加古川線の日本へそ公園駅と岡之山美術館がある。

東経 135 度は英国グリニッジから東回りに測った経度である。このような経度は 1714 年に制定された英国の経度法、1766 年発刊の航海暦が発端とのこと\*。1714 年と言えば英国ハノーバー朝（現在のウインザー朝の直系）の始祖ジョージ I 世、英国が世界に冠たる海洋国家として君臨した時代で、蒸気機関で言えばニューコメン機関が市場に出た時代にあたる。海洋国家である大英帝国の基準がそのまま世界標準になったのは想像に難くない。

わが国は 1886（明治 19）年に勅令第 51 号「本初子午線経度計算方及標準時ノ件」でもって明石市を通る東経 135 度での時間を日本標準時とした。1960 年にこのことを記念した天文科学館が竣工し、それ以来 62 年になる。天文科学館には当時東ドイツの Carl Zeiss Jena によるプラネタリウムが設置された。そのプラネタリウムのオーバーホールが延び延びになっているとのこと。原因は新型コロナウイルス蔓延防止のための水際対策の影響で海外（Carl Zeiss 社）の技術者が来日できないことによるという。

新型コロナウイルスといえば、わが国は年末から年始にかけて感染者が非常に少なくなったが、その時すでに欧米ではオミクロン株による感染が甚大な状況であった。それを受けて海外からの入国停止、のちに日本国民に限定して入国許可し、いわゆる水際作戦を実施したが、米軍基地という盲点があり、米軍のみならず帰国者などからも感染が広がり、この原稿を執筆している 2 月半ば、我々は感染第 6 波のただなかにいる。兵庫県では 1 日の感染届け出数 5000 人、大阪府で 1 万人超、京都府で 2000 人あまりという。英国などは制限しても制限しなくても同じとみたのか、ワクチン接種を条件に入国制限をかなり緩和しているようだ。

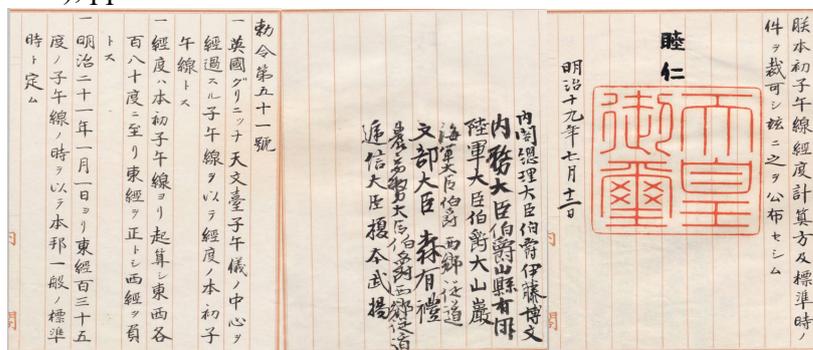
最近、我が国政府もある程度緩和の方向にあるようだが、昨年海外で待機している留学生にとってはまだまだハードルが高そうである。空港など水際にて検疫、隔離施設での待機などしようとする、1 日にさばける数に制限があり、容易に全面開放とはいかないようである。中国のように完全追跡システムを導入するにも、個人の行動の自由の制限にもなりかねないのか、我が国では実現しそうにない。ひとによっては感染していても症状が非常に軽い場合もあって、本人が知らぬ間にスプレッダーになっている場合もあり、非常に厄介である。

最近のニュースによれば、幼稚園、保育所、介護施設などで感染が大きく広がっているという。それらで感染すると、家庭内に拡散する。また介護施設などは基本的には閉鎖空間ではあるが、介護する要員は外から出入りするのだからウイルスが入り込む可能性は少ないだろう。

すなわち感染の連鎖は断ち切るのが非常に難しく、厳密な閉鎖空間、熱力学で言う孤立系を実現することは事実上不可能となる。このような状況では、個々が手軽に診療を受けられる体制の構築が望ましくはないだろうか。感染の有無に

かかわらず体調がすぐれなければ特定の病院ではなく、日ごろのかかり付け医に相談し、場合によっては通常の病院を紹介してもらい、場合によっては自宅で静養する、水疱瘡やおたふくかぜのような通常の対応に持ち込む以外に方法はないのではないのか。健康保険による治療となるのは当然で、今問題になっている医療ひっ迫問題は解消しそうだがいかがか。感染力が非常につよいオミクロン株相手に何を言ってるの、けしからんと、多くの方々から叱られそうだが、世界的に見てもまた国内でも、明らかに我々のすぐ隣にまで入り込んで日常的になってきた新型コロナウイルスに対応するには、これしかないと思うのだが。東経135度子午線に位置するメンテナンスが延び延びになっているプラネタリウムを思いながら、そんなことを考える。

\*小倉伸吉, 天文と航海, 天文月報, Vol. 15, No. 9 (1922) pp. 135-140 及び No. 10 (1922), pp. 154-161.



国立公文書館デジタルアーカイブ <https://www.digital.archives.go.jp/img/153583>